

2023 年度国際交流事業
—京師南奥実験学校との交流活動—

酒井 悟

1 活動について

本活動は、今年度4年ぶりに再会した京師南奥実験学校との交流活動を経て、1月に同校が来日した機会に行われた。同校と連携協定を結んでいること、また本学教職大学院の授業参観を希望してきたことで、教職大学院の国際交流事業に位置付けて実施した。

2 活動計画

(1)ねらい

○新潟大学附属6校園と連携協定を結んでいる京師南奥実験学校の教員との交流を行い、相互の連携及び教育活動を一層深めていくことに資する。

○京師南奥実験学校と新潟大学附属小学校及び新潟市内の公立学校との交流を通して、新潟大学及び新潟市公立学校との連携を深める。

(2)訪問者

京師南奥実験学校教員 36名

(3)期間

2024年6月1月22日(月)～1月26日(木)

(4)日程

1月22日(月)

移動日・歓迎会

1月23日(火)

新潟大学附属小・中学校視察

教職大学院授業参観

交流会および懇親会

1月24日(水)

1月25日(木)

新潟大学附属長岡小学校視察

3 活動

(1)新潟大学附属新潟小・中学校視察

1月23日(月)午前中に、新潟大学附属小・中学校の視察を行った。附属小学校の取組について中原広司校長より説明をしてもらった。その後、小学校教員は小学校の社会と学級活動の授業参観を、中学校教員は2時間かけて中学校の授業参観を行った。参観後、中原校長と研究主任より、附属小学校の学校教育理念や研究の取組、特色ある学校づくりについて質疑を受ける時間を設定した。

本学同行者 相庭和彦 雲尾周 宮蘭衛

M1：大澤一樹 宮本裕介



(2)教職大学院授業参観

1月23日(月)午後は、新潟大学教育学部棟で、教職大学院生による課題研究発表を行った。M1院生4名、M2院生2名が発表をした。主に学習指導と学校経営とに別

れ、一人 40 分ほどで行った。京師南奥実験学校の教員は熱心に発表を聞き、活発な意見交流となった。

<内容>

全体進行：酒井悟

- 1 歓迎の言葉 高木幸子 研究科長
- 2 挨拶 鄭鉄軍 校長
- 3 講義 講師 雲尾周

日本義務教育の課題と取組及び今後の方向性

4 課題研究発表

A グループ 進行：佐藤大介
担当 相庭和彦

発表 岡村芳倫
倉田彩子
吉川久美子

B グループ 進行：田代孝
担当：高木幸子

発表 古塩豪
川崎智也
斎藤崇人

協力者 木島靖人



(3) 交流会および懇親会

京師南奥実験学校教員 36 名に加え、新潟大学関係、新潟大学附属小・中学校、新潟市立上所小学校、新潟大学教職大学院生、創生学部学生、これまで連携事業に関わった方が集まり、88 名で交流会および懇親会が行われた。1 月の寒い夜ではあったが、会場は熱気に包まれ盛会となった。親交を確かめ、さらに深め合う場になった。今回の訪日は、教科担任の方が多く、授業実践の情報交換も弾んだ。



(4) 新潟市立上所小学校視察

1 月 24 日（水）午前は、新潟市立上所小学校の視察を行った。全学級での授業参観を提供していただいたことで、発達段階の異なる子どもたちの学びの様子を知る機会となった。タブレットを活用した授業や個や小集団に分かれての探究活動、学級会で子どもが主体的に学級の事柄について話し合っている様子等を興味深く観察していた。2 時間授業参観をした後、吉田亨校長先生から学校の取組について説明を受けた。2 時間の授業参観を受けて、活発な意見交流が行われた。

本学同行者：相庭和彦 雲尾周 酒井悟

(5) 新潟大学附属長岡小・中学校視察

1月25日(木)午前は、新潟大学附属長岡小・中学校の視察を行った。附属長岡小学校の子ども3名がコンシェルジュとして出迎えのあいさつや授業の説明補助を担当した。4年生と6年生のそうせい(総合的な学習の時間)の授業参観を行った。この授業は、附属長岡小学校の特色ある取組に位置付いている。地域と関わる学びの場で、子ども自身がAARを回す探究的な授業が提案された。

また、10名程の教員が附属長岡中学校の授業を参観した。

その後、山崎勝之校長と研究主任から研究の取組について説明を受けた。

本学同行者 相庭和彦 中島伸子

M1: 古塩豪



4 評価および今回の活動の特色

(1) 交流の場

今年度の秋に、教職大学院の選択科目「グローバル教育実践演習」で訪中した。その時には同行できなかったが、今回の活動では課題研究発表や懇親会に参加していた院生もいる。秋に情報交換できなかった内容について、直接、話を聞くことができたと話していた。

学校現場にいと、他国の教員と直接、教

育に関する話ができる機会は少ない。国が違うことで教育にも相違点がある。その相違点について直接対話しながら確認できる機会となった。これも新潟大学教職大学院ならではの教育の機会となっている。

(2) 連携の場

今回は、教職大学院の他に、新潟大学附属学校や新潟市内公立小学校との交流の場があった。コロナ禍になり停滞しかけていたが、再び活動が動き出してきた。

今後は、附属学校と連携協定を結んでいる他国の学校間で、教員同士および子どもとの交流が継続していくことで、グローバルな教育実践が一層定着していく。さらにこの交流が新潟県・市内にも広がってくことで、この交流活動が、グローバル化に向けた教育活動を推進するきっかけになることが期待できる。